

「タイ北西部の中山間地を管轄する地方自治体」現地調査 ——草の根的国際協力NGOヴォランティア活動の 円滑な実施に裨益する行政関連資料——

富田 育磨*、川嶋 辰彦†

1 はじめに

GONGOVA（「学習院海外協力研修プログラム Gakushuin Overseas Non-Governmental Organization Volunteer Activity Programme」の略称）は、草の根的国際協力NGOヴォランティア活動プログラムであり、その主目的は、(1) 参加青年達の自己啓発・自己実現・意識改革の促進、並びに(2) 協力対象地域に於ける生活基盤環境の改善及び自然環境の再生・保全にある⁽¹⁾。同プログラムの基本構想は1996年に企画立案され、翌1997年以来、タイ北西部地域の熱帯季節林に囲まれた山岳少数民族居住山村に於いて、15回に亙り継続的に毎年執り行なわれて来た。その間に種々の成果を挙げることができ、幸いにも所期の目的が達せられたので、2010学年度をもってGONGOVAは幕を閉じる予定である。ところで、GONGOVAを一つの実践例とする同プログラムと似通った、国際協力NGO活動プログラムの適切な執行には、協力対象地域の基本的特質を理解しておくことが肝要である⁽²⁾。本稿ではこの観点に立ち、GONGOVAが最近主な協力対象地域に据えている「タイ北西部山岳少数民族居住山村ホエ・ヒン・ラート・ナイ Huay Hin Lahd Nai を、直接管轄する地方自治体である」バン・ポン Ban Pong 区を対象とする、現地調査の結果得られた行政関連資料の一部を整理して簡潔に報告する。

第2章ではこの様な意図の下に、山村ホエ・ヒン・ラート・ナイについて概説する。次いで第3章では、同村が帰属するバン・ポン区⁽³⁾に関わる、地方自治行政組織のヒエラキー、人口・土地・就業別労働人口の職業別割合、及び同区に帰属する7ヶ村について触れる。第4章では、バン・ポン区の行政機構、年間予算、及び区長の政策的抱負について纏める。第5章では、本稿で新たに得られた知見を整理する。なお、現地フィールド調査は第一筆者が主に執り行ない、調査研究の構想・立案及び段取り設定、並びに資料の整理・考察は、第一筆者と第二筆者が共同で進めた。

*学習院大学川嶋辰彦教授研究室リサーチ・アシスタント。2006年2月～2010年10月の間に11回に亙り、計280日間以上タイ北西部の山村に滞在し、第二筆者と共に現地で国際協力ヴォランティア活動や、フィールド調査に携わってきた。

†学習院大学経済学部。GONGOVAプロジェクト責任者。

(1) GONGOVAの詳細については、例えば学習院大学東洋文化研究所（1997）、学習院大学GONGOVAユニット（1998～2009）、Kawashima and Samata（2002）及び川嶋（2009）を参照されたい。

(2) この認識の下で富田・川嶋（2010）は最近、タイ北西部に居住するカレン族の音楽政治学的特質を考察した。

(3) 行政組織上「郡」の下部機構に当たる地方自治体「区」は、タイ語で「タムボン」と呼ばれる。詳細は第3章を参照されたい。

ところで本稿で報告する資料は主として、山村ホエ・ヒン・ラート・ナイを含む中山間地域をその管轄下に置くバン・ポン区の区役所 Ban Pong Sub-district Administration Office (SAO)⁽⁴⁾が、毎年発行する『予算計画書』⁽⁵⁾及び『中期予算報告書』⁽⁶⁾を、同区の区長⁽⁷⁾ chief executive of SAO及び同区の政策企画部長 chief of policy and planning department of SAO に解説を乞いながら、纏めたものである。

上記の報告書は、区議会の議員及び区役所の上級職員に資料として配られたもので、一般には頒布されていない。現在、バン・ポン区には、過去10年間に互る各会計年度の『予算計画書』が、全ての会計年度⁽⁸⁾で揃っている。しかし、区役所に保管されている『中期予算報告書』は5冊のみで、古い順に、Ban Pong SAO (2002a、全20頁)、同 (2005a、全62頁)⁽⁹⁾、同 (2008a、全80頁)、同 (2009a、全65頁)、及び同 (2010a、全76頁)となる。なお、『予算計画書』や『中期予算報告書』に記載されている数値の中には、重要項目のデータ等が補正予算執行との関連で時に不整合な場合がある。その際には、同区政策企画部長から許可を得て公文書を開覧し、本稿を纏める上で必要なデータに当たった。なお以下で紹介する数値は、特記しない限り主として Ban Pong SAO (2010) に拠るものである。

2 ホエ・ヒン・ラート・ナイ村⁽¹⁰⁾

海拔1,000m近い熱帯季節林内の谷懐に抱かれたホエ・ヒン・ラート・ナイ村は、白カレン族居住山村で、タイ北西部チェンライ Chiang Rai 県のチェンライ市街地中心部から、車で2時間半の所に位置する。同村は1964年に従前の山里を離れ、現在地に新たな集落を形成した村落で、チェンライ Chiang Rai 県ウイアン・パ・パオ Wiang Pa Pao 郡バン・ポン区第七番村 Moo 7 (ムー・チュット) を構成する主要集落の一つである。行政組織上厳密に言えば後述するように、「ホエ・ヒン・ラート・ナイ村」ではなく第七番村内の「大字 (おおあざ) ホエ・ヒン・ラート・ナイ」と呼ぶべきであろう。しかしタイ語の「バン Ban」が、一つの集落共同体「村 large and small villages」を通常は意味することに鑑み、本稿では「ホエ・ヒン・ラート・ナイ村」と呼ぶ。

同村では全戸が仏教に帰依し、同時に精霊信仰の祭祀儀礼も継承している。村人は茶や陸稻及び水稲の栽培、並びにタケノコの採取等、「森林保全型農業」を主たる生業としている。村内の生

(4) SAOは、タイ語の「オンガン・ポリハーン・スワン・タムボン」に当たり、その略称オボト Oboto が、「区役所」を指す呼称として通常用いられる。なお各区に設置されている区議会の公選議員も、「オボト」と呼ばれる。なお、バン・ポン区役所の行政機構及び区議会の公選議員については、第4-1節を参照されたい。

(5) Ban Pong SAO (2002~2010、2010b)。

(6) Ban Pong SAO (2002a、2005a、2008a、2009a、2010a)。これらの報告書には、3~5ヶ年の予算計画が述べられている。

(7) 区長の政策的抱負等に関しては、第4章を参照されたい。

(8) バン・ポン区で採用されている会計年度は、10月1日に始まり翌年9月30日に終わる。

(9) Ban Pong SAO (2005a) 以後は、歳出に関する詳細なデータが報告されるようになり、Ban Pong SAO (2002a) に比較し頁数が凡そ3~4倍に増加した。

(10) 本節は、富田・川嶋 (2011) の第1-2節と重なる部分が多い。なお GONGOVA は、2008年からNGOヴォランティア活動拠点の一つを同村に置き、コミュニティ・ハウス及び簡易水道施設の整備、村落へのアクセス道路や熱帯林防火パトロール用林道の普請、換金性果実樹木の移植、同樹木の育苗用遮光施設の建設、熱帯養蜂農業の導入、及び食用ガエルの養殖等を、支援している。

活環境基盤は必ずしも満足には整備されておらず、電気設備は太陽光発電パネルを用いて、夜分は2本の細い蛍光灯を灯す。生活用水は、近くの溪流に設置された小型堰の取水口から、塩化ビニール・パイプで村内の高みに設けられた貯水槽に一旦引かれ、そこから各戸に給水される。携帯電話は、山奥の谷間にあるため通じない。2010年9月時点で、世帯数は21戸、人口は95人を数え、内女は46人、男は49人である。なお、同村が形成された1964年当時の人口規模は、現在の凡そ半分であった。年齢階層別人口の内訳は乳幼児6名、小学生15名、中学生7名、10歳代後半～20歳代の未婚女性（カレン語で「ムグノ」）8名、10歳代後半～30歳代前半の未婚男性（カレン語で「ポサクア」）9名、60歳以上10名、及びその他働き盛りの成人が40名である。なお、30歳代後半以上の男女は束ねて、中高年及び老人を意味する「サブガァ」と呼ばれる。

ホエ・ヒン・ラート・ナイ村は、熱帯林の維持・再生及び利活用面で優れた識見と豊かな経験に富む集落として、タイ国内のテレビや雑誌で時折り紹介される。森林保全型農業を積極的に取り入れている同村はまた、中央・地方政府関連諸機関や内外のNGO団体との連携に努めると共に、タイ北西部のカレン族居住山村凡そ180ヶ村と、森林環境保全を目的とする協力ネットワークを構築し、その中心的役割を担う。具体的には、チェンライ県やチェンマイ Chiang Mai 県内の山村や、国内外の教育・研究機関並びにNGOから視察目的で訪ねてくる村外の人々を多く受け入れ、乞われれば森林保全型農業の「生きた博物館」である同村の共有林 commons に訪問者を案内し、熱帯季節林の自然環境に関する知識の普及、及びカレン族が伝統的に有する森林管理哲学の発信に努めている。

なお、ホエ・ヒン・ラート・ナイ村が所属する第七番村には、他に次の3つの村落⁽¹¹⁾が所属する。それらは、ホエ・ヒン・ラート・ノック Huay Hin Lahd Nok⁽¹²⁾村、パ・ユヤム Pa Yuyam⁽¹³⁾村、及びホエ・サイ・カオ Huay Sai Kao⁽¹⁴⁾村である。

3 バン・ボン区

3-1 地方自治体のヒエラーキー

タイに於ける地方自治体の行政組織ヒエラーキーは、一般に次の様に示される（括弧内はタイ語による呼称）。⁽¹⁵⁾

(1) 県 prefecture (チャンワット jangwad)

(11) 厳密に言えばこれら3ヶ村は行政組織上、ホエ・ヒン・ラート・ナイと同様に、「村」ではなく、「大字（おおあざ）」である。

(12) 1968年に、現在地に集落を形成した白カレン族の居住山村であり、2010年9月現在の世帯数は25戸、人口は126人を数える。また各戸の信仰を宗教別に見ると、キリスト教プロテスタントに帰依している世帯15万、仏教に帰依し同時に精霊信仰の祭祀儀礼も継承している世帯9戸、及び仏教に帰依している世帯1戸である。

(13) 1982年に、現在地に集落を形成した白カレン族の居住山村であり、2010年9月現在の世帯数は6戸、人口は33人を数える。なお宗教上の特質は、ホエ・ヒン・ラート・ナイ村と同様である。

(14) 山岳少数民族赤ラフ族の居住山村であり、全世帯キリスト教プロテスタントに帰依している。世帯数は29戸、人口は128人（女性人口が男性人口よりやや多い）を数える。主な生業は、キャベツ等の野菜栽培とタケノコ採取であり、焼畑農耕は行っていない。

(15) タイの行政機構の骨組みについては、例えば日本タイ学会（2009、470頁）を参照されたい。

- (2) 郡 district (アンプー amphur) 又は市 municipality (テーサ・バン tesa ban)
- (3) 区 sub-district (タンボン tambon) 又は市 (格の高いタムボン)
- (4) 村 village (ムー moo 又はムー・バーン moo ban)
- (5) 大字 (おおあざ) village (バン ban)

ここで、ホエ・ヒン・ラート・ナイ村との関連でまずチェンライ県に目を遣ると、同県は次の18郡よりなる(2010年10月現在)。

- ①アンプー・ムアン Amphur Muang 郡⁽¹⁶⁾
- ②ウイアン・ケーン Wiang Kaen 郡
- ③ウイアン・チャイ Wiang Chai 郡
- ④ウイアン・チェン・ルン Wiang Chiang Lung 郡
- ⑤ウイアン・パ・パオ Wiang Pa Pao 郡
- ⑥クン・ターン Khun Tang 郡
- ⑦チェーン・コーン Chiang Khong 郡
- ⑧チェーン・セーン Chiang Sean 郡
- ⑨パ・デー Pa Deet 郡
- ⑩パヤメンライ Payamengrai 郡
- ⑪トゥーン Thoen 郡
- ⑫ドイ・ルアン Doi Luang 郡
- ⑬パーン Phan 郡
- ⑭メー・サイ Mae Sai 郡
- ⑮メー・スウェイ Mae Suai 郡
- ⑯メー・チェン Mae Chan 郡
- ⑰メー・ファー・ルアン Mae Fah Luang 郡
- ⑱メー・ラオ Mae Lao 郡

次いで、ウイアン・パ・パオ郡⁽¹⁷⁾を見ると、同部は次の4つの市及び5つの区によりなる。まず4つの市は、次のとおりである(2010年10月現在)。

- ①ウイアン・ガーロン Wiang Garon 市
- ②ウイアン・パ・パオ Wiang Pa Pao 市⁽¹⁸⁾
- ③パ・ニュー Pa Ngiu 市

(16) 「アンプー・ムアン」は、「県庁所在地郡(即ち、県庁所在地チェンライ市)」を意味する。

(17) チェンライ市街地中心部から、特急バスで所要時間凡そ90分であり、チェンマイ市中心市街地からも、同じく90分である。

(18) ウイアン・パ・パオ市は、ウイアン・パ・パオ郡とは別組織の地方自治体である。同市とウイアン区、並びにメー・カチャン市とメー・チェディ区は、夫々行政業務上密接な連携関係にある。

④メー・カチャン Mae Kachan 市

また、5つの区は次のとおりである（2010年10月現在）。

- ①ウイアン Wiang 区
- ②サン・サリ San Sali 区
- ③バン・ポン Ban Pong 区⁽¹⁹⁾
- ④メー・チェディ Mae Chedi 区
- ⑤メー・チェディ・マイ Mae Chedi Mai 区

3-2 バン・ポン区の人口動態、土地利用、及び職業別労働人口

チェンライ県ウイアン・パ・パオ郡に属するバン・ポン区は、人口5,000人強の地方自治体である。1996年12月16日に設置され、区内の世帯数及び人口、並びに、区の面積に関する最近の推移は、次のとおりである。

- (1) 2002年: 1,486戸、4,960人（女2,509人、男2,451人）、47,500ライ
- (2) 2008年: 1,637戸、5,221人（女2,613人、男2,608人）、60,639ライ
- (3) 2009年: 1,674戸、5,195人（女2,578人、男2,617人）、60,639ライ
- (4) 2010年: 戸数データなし、5,188人（女2,56人、男2,623人）、60,639ライ

以上より、区の面積が一定でとなった2008年以降、人口は5,200人程度で落ち着いていることが解る。続いて、同区の総面積60,639ライ⁽²⁰⁾を土地利用別割合で示すと、次のとおりである（2009年現在）。

- ①山岳・森林地帯; 59.0%（この範疇は、主として「自然林」又は「山面が極めて急峻な林地」を指す）
- ②山地; 23.4%（この範疇は、「活用林」又は「それに準ずる林地」を指す）
- ③平地; 17.6%

このように、バン・ポン区総面積の8割以上（約50,000ライ）が、山岳・森林地帯及び山地によって占められている。その7割強に当たる35,777ライでは、熱帯季節林の自然環境が比較的良好に保全されており⁽²¹⁾、その山地では、定住・循環型焼畑農耕による陸稲栽培等が行なわれている。しかし、区内居住者の大半は平地部に居住し、水稲栽培を中心とする農業に従事している。

また、区内で見られる就業労働人口の職業別割合は、以下のとおりである。

(19) バン・ポン区は、なるべく早い時期に市へ昇格することを望んでいる。

(20) 凡そ97キロ平方メートル。1ライRai = 1,600m²。

(21) 自然環境が保全されている区域は、バン・ポン区の総面積の59%を占める。区内には、次の「自然の水辺」がある。

①川幅の比較的広い河川; 2、②小流よりは規模の大きい溪流; 10、③湖沼; 13、④堰き止め湖; 2、⑤温泉; 1、⑥滝; 1。

- ①農 業; 74.90%
- ②一般従業員; 15.57%
- ③自営業; 6.73%
- ④公務員; 2.05%
- ⑤その他; 0.75%

このように、総就業人口の約4分の3を農業人口が占め、残る4分の1弱を一般従業員と自営業が占める。なお、一般従業員と自営業の職場は、既に市街化し交通量の多い、幹線国道118号線⁽²²⁾沿いに集中している⁽²³⁾。

3-3 バン・ポン区内の村落

山岳・森林地帯及び山地の占める割合が8割に達するバン・ポン区は、7つの村（ムー・バン moo ban）に分けられる。各村の（a）世帯数、（b）人口（女／男）、（c）主要産業等、（d）地理的位置及び民族的特性、並びに（e）住民の宗教は、次のとおりである⁽²⁴⁾。なお、ムー・チェット Moo 7 村は、2000年にムー・ソーン Moo 2 村から分離独立する形で、新たに設置された。

- (1) ムー・ヌン Moo 1 村（第一番村）、通称「バン・フエ・ハイ Ban Fuei Hai（フエ・ハイ村）」；
 - (a) 209戸。
 - (b) 539人（282人／257人）人。
 - (c) 水稲栽培。
 - (d) 国道118号線東側の水田地帯に位置する、北タイ人⁽²⁵⁾の共同体。
 - (e) 居住者の大半が仏教徒。
- (2) ムー・ソーン Moo 2 村（第二番村）、通称「バン・ポン・テーヴィ Ban Pong Thewi 村（ボン・テーヴィ村）」の第1地区⁽²⁶⁾；
 - (a) 317戸。
 - (b) 991人（499人／492人）。
 - (c) 水稲栽培、織物、砂糖菓子製造、キノコ栽培、陶器製造、米穀貯蔵、家畜飼育、塑像

(22) チェンマイ市～チェンライ市間を繋ぐ、主要幹線道路。

(23) 一般従業員、自営業、及び公務員の主な職場は、次のとおりである（2010年現在）。(1) 商工業施設: ①宿泊施設; 1、②食堂・レストラン; 15（2002年現在、2）、③石油販売所; 5（2002年現在、1）、④雑貨小売店; 40、⑤精米所; 4、⑥キノコ栽培所; 15、⑦漬物工場; 1、⑧穀物商店; 4（2002年現在、1）、⑨温泉施設; 1、大理石採掘所; 1。(2) 教育施設: ①小学校（4～12歳）; 5、②中学校（13～15歳）; 1、③保育所（0～3歳）; 4、④図書館; 7、⑤非正規教育省 Department of Non-formal Educationの管轄下にある学校; 1。(3) 宗教施設: ①大規模寺院; 4、②小規模寺院; 3、③キリスト教会; 2。(4) 厚生施設: 健康・運動センター; 2。(5) 警察施設: 郡警察署; 1。(6) 行政施設: 区役所; 1。

(24) 各地区名称の英語表記は、地図等で一般に使用されているもので、必ずしも公式の表記ではない。

(25) タイ語で、「コン・ムアン Khon Muang」。

(26) 村落名称「バン・ポン・テーヴィ」は、ムー・ソーン Moo 2 及びムー・ハー Moo 5 の2ヶ村に跨がって用いられる。

制作、及び酒造。

- (d) 国道118号線西側の商業地域・水田地帯に位置する、北タイ人の共同体。
- (e) 居住者の大半が仏教徒。

(3) ムー・サム Moo 3 村 (第三番村)、通称「バン・サン Ban Sang (サン村)」;

- (a) 258戸。
- (b) 797人 (398人/399人)。
- (c) 水稲栽培、及び籠製作。
- (d) 国道118号線東側の水田地帯に位置する、北タイ人の共同体。
- (e) 居住者の大半が仏教徒。

(4) ムー・スイー Moo 4 (第四番村)、通称「バン・ランガー Ban Langer (ランガー村)」;

- (a) 301戸。
- (b) 919人 (439人/480人)。
- (c) 水稲栽培、及び整髪理容。
- (d) 国道118号線西側の水田地帯に位置する、北タイ人の共同体。
- (e) 居住者の大半が仏教徒。

(5) ムー・ハー Moo 5 (第五番村)、通称「バン・ボン・テーヴィ (ボン・テーヴィ村)」の第2地区);

- (a) 351戸。
- (b) 1,101人 (549人/552人)。
- (c) 水稲栽培、トウモロコシ栽培、織物、キノコ栽培、家畜飼育、自動車修理。
- (d) この村は、次の2つの地域集落「大字 (おおあざ)」に分けられる。
 - ① 国道118号線西側の商業地域・水田地帯に位置する、北タイ人の共同体。
 - ② 国道118号線を西に折れた国道1150号線沿いの山岳地帯に位置する、リス族⁽²⁷⁾共同体である大字パ・トゥン Pa Tung⁽²⁸⁾。
- (e) この村の宗教は、次の2つに分けられる。
 - ① 北タイ人の共同体では、居住者の大半が仏教徒。
 - ② パ・トゥン村 (厳密には大字パ・トゥン) では、居住者の過半数がキリスト教プロテスタント。

(6) ムー・ホック Moo 6 (第六番村)、通称「バン・サン・トー Ban San Do (サン・トー村)」;

- (a) 158戸。
- (b) 493人 (242人/251人)。

(27) リス族は、タイ北西部の主として山岳地域に居住する山地民 (チャーオ・カオ) であり、タイの主要な少数民族のひとつに数えられる。人口は4万人弱である。

(28) 世帯数は凡そ70戸、人口は300人である。

- (c) 水稻栽培。
- (d) 国道118号線西側の水田地帯に位置する、北タイ人の共同体。
- (e) 居住者の大半が仏教徒。

(7) ムー・チェット Moo 7 (第七番村)、通称「バン・ホエ・ヒン・ラート Ban Huay Hin Lahd (ホエ・ヒン・ラート村)」;

- (a) 80戸。
- (b) 382人 (196人/186人)⁽²⁹⁾。
- (c) 陸稲栽培、トウモロコシ栽培、及び野菜栽培。
- (d) この村は、国道118号線から西へ折れた国道1150号線沿いの山岳地帯に位置し、次の4つの地域集落「大字 (おおあざ)」に分けられる⁽³⁰⁾。
 - ①カレン族⁽³¹⁾の共同体である、ホエ・ヒン・ラート・ナイ村⁽³²⁾ (厳密には大字ホエ・ヒン・ラート・ナイ)。
 - ②カレン族の共同体である、ホエ・ヒン・ラート・ノック村 (厳密には大字ホエ・ヒン・ラート・ノック)。
 - ③カレン族の共同体である、パ・ユヤム村 (厳密には大字パ・ユヤム)。
 - ④ラフ族⁽³³⁾の共同体である、ホエ・サイ・カオ村 (厳密には大字ホエ・サイ・カオ)。
- (e) この村の宗教形態は、次の3つのグループに分けられる。
 - ①カレン族の共同体である2集落 (ホエ・ヒン・ラート・ナイ村及びパ・ユアン村) では、各集落の全戸が精霊信仰を併せ持つ仏教徒。
 - ②カレン族の共同体であるホエ・ヒン・ラート・ノック村では、全戸数の6割がキリスト教プロテスタント、4割弱が精霊信仰を併せ持つ仏教徒、及び1戸が仏教徒。
 - ③ラフ族の共同体であるホエ・サイ・カオ村では、全戸がキリスト教プロテスタント。

4 バン・ポン区の行政機構と年間予算

4-1 行政機構

バン・ポン区役所の建物は、国道118号線に近い水田地帯の一角にある。敷地内正面に鉄筋コンクリート2階建ての庁舎があり、庁舎に向かって左側に区議会議事堂、及び右側に消防署が配置されている。同区役所の機構は、次の通りである。

(29) この村の村長の話しによると、同村の人口は2000年に凡そ250人であった。この10年間に約100人の人口増が見られた原因には、自然増に加え、同村での比較的頻繁な市民権証明書発給に促されて、同村へ移住した人々による社会増がある (同村の村長自身はこの10年間に、40人以上の市民権証明書請求業務に携わった)。

(30) これら4つの大字の世帯数及び人口は、次のとおりである。①ホエ・ヒン・ラート・ナイ (2010年10月現在); 21戸、95人。②ホエ・ヒン・ラート・ノック (2010年9月現在); 25戸、126人。③パ・ユヤム (2010年9月現在); 6戸、33人。④ホエ・サイ・カオ (2010年9月現在); 29戸、128人。

(31) タイ北西部の主として山間地域に居住しており、タイに居住する少数民族の中では、最大の人口38万人強を擁する。

(32) 同村の村人が共有する「熱帯季節林の維持・再生及び利活用」に関する森林管理哲学は、理念的にも実践的にも大変優れている。この点についての詳細は、例えば富田・川嶋 (2011) を参照されたい。

(33) タイ国内の主として山間地域に居住しており、タイに居住する主要な少数民族の一つ。人口は10万人強。

- ①区長 chief executive⁽³⁴⁾; 1名
- ②区議会の公選議員 assembly members⁽³⁵⁾; 各村より2名ずつ計14名（現在の議員は女2名、男12名）
- ③行政官 administrators; 8名（うち2名は副区長 vice-chief executive）
- ④監督官 inspectors; 6名
- ⑤事務官 administrative officials; 4名
- ⑥非常勤職員 part-time faculty and staff; 11名

上記のように、バン・ポン区役所に勤務する地方公務員は、非常勤職員を含めて30名⁽³⁶⁾を数える。他方、区議会公選議員は14名である。議員の任期は4年で、各村（ムー・バン moo ban）から2名ずつ選出される⁽³⁷⁾。議員の主な仕事は、年に1度の年度予算編成の審議会、年に4度の重要案件策定の審議会（1回当たりの会期は2日間）、及び月例議会への出席である。

また、区役所内の設備は必ずしも十分ではないが、職員は整然とした職場環境で、行政業務を行なっている⁽³⁸⁾。

翻って、前節で述べた各村には、村長1人と助役2人が置かれている⁽³⁹⁾。村長は村民による直接選挙で選出され、任期は5年である。村長の業務は、区役所よりは郡役所との関わりが深い⁽⁴⁰⁾。村長の主な仕事には、村内の状況や村民の要望を郡長に伝えること、村民の結婚、子どもの誕生、及び死亡等に関する事務手続き業務を執り行なうこと、並びに、市民権を持たない村民に対して、市民権証明書取得手続き業務を進めること、等がある⁽⁴¹⁾。

(34) 現地では一般に、ナイ・ヨーク Nai Yok と呼ばれる。現在のナイ・ヨークは、2006年の選挙に於いて、有権者3,891人中2,846票（73.14%の得票率）を獲得して当選した。月給はTHB10,800。なお、THB1（1タイ・パーツ）は3円弱。

(35) 現地では一般に、区役所を示す略語オボトObotoが、区議会議員の職名としても用いられる。オボトの月給はTHB4,900。

(36) 現在の職員30名の学歴は、次のとおりである。中学卒0名、高校卒16名、大学卒12名、及び大学院卒2名。

(37) 現在の議員が当選した2008年の選挙結果を地区毎に見ると、次のとおりである（①選挙区の有権者数、②立候補者数、③当選議員2名の得票率）。(1) Moo 1; ①424人、②8人、③295票（69.58%）。(2) Moo 2; ①736人、②9人、③530票（72.01%）。(3) Moo 3; ①614人、②4人、③440票（71.66%）。(4) Moo 4; ①713人、②5人、③546票（76.58%）。(5) Moo 5; ①795人、②9人、③557票（70.06%）。(6) Moo 6; ①366人、②2人、③262票（71.58%）。及び(7) Moo 7; ①242人、②3人、③214票（88.43%）。なお、2012年から区議会議員の定員は各村1名とすることが、既に区議会で決定されている。

(38) 職員は、区役所の日常業務に於いて次の備品を使用している。①デスク・トップ・コンピュータ; 13、②ノート・ブック型コンピュータ; 1、③ビデオ・カメラ及びカメラ; 3、④プロジェクター; 1、⑤タイ文字タイプライター; 1、⑥コピー機; 1、⑦映写機; 1、⑧オートバイ; 2、及び⑨乗用車; 2。

(39) 村長はタイ語で「プーヤイ・バンPhuyai Ban」と呼ばれ（一般的な呼称はパルアンPaluang）、月給はTHB6,000。村の助役はタイ語で「ブチョエBuchoe」と呼ばれ、月給はTHB3,000。

(40) ウィアン・パ・バオ郡庁舎で月に1度開催される郡の定例会議には、郡関係者に加え、同郡内の全村長86人（2010年9月現在、ラフ族4人・モン族3人・カレン族2人・リス族0人・アカ族0人で、その他は北タイ人）、及び、タイ語でガム・ナン Gam Nan と呼ばれる特別職7人（郡の管轄下にある4つの市及び5つの区から選出）の、合計93人が出席する。なお、村長の給与は郡より支払われる。

(41) 区議会議員と村長との詳細な役割分担に関しては、ここでは立ち入らない。

4-2 年間予算の推移

本節では、2011～2000年の12年間にバン・ボン区役所及び同区の議会が編成した、確定予算⁽⁴²⁾ 或いは見込み予算⁽⁴³⁾を整理する。なお、歳入及び歳出の仕訳項目は次のとおりであり、通貨単位はタイ・バーツ Thai Baht (THB) である⁽⁴⁴⁾。なお、1タイ・バーツは3円弱である。

(1) 歳入の仕訳項目:

- ①租税収入⁽⁴⁵⁾、
- ②地方交付税交付金⁽⁴⁶⁾、
- ③国家からの補助金（使途制約あり）、
- ④国家からの補助金（使途制約なし）⁽⁴⁷⁾、
- ⑤その他⁽⁴⁸⁾。

(2) 歳出の仕訳項目:

- ⑥助成金（小学校給食費、球技大会経費等）、
- ⑦人件費（区長・議員・常勤非常勤職員給与、労務関係諸費等）、
- ⑧公共投資費等（公共施設等の設備投資費・PC機器購入及び維持費等）、
- ⑨予備費（緊急対応資金）、
- ⑩管理費（会議・行事経費、区保有車のガソリン経費、庁舎冷房経費、一般備品購入費等）、
- ⑪その他。

上記の項目毎に、2000～2011会計年度⁽⁴⁹⁾の予算推移を年度別に年代を遡る形で整理すると、以下のとおりである。

(1) 2011会計年度（歳入及び歳出は共に、見込み額）

- a. THB 16,000,000.00: ①THB 277,200.00 ②THB 7,922,800.00 ③THB 7,800,000.00
- b. THB 16,000,000.00: ⑥THB 1,301,000.00 ⑦THB 5,242,320.00 ⑧THB 2,098,500.00
⑨THB 1,950,000.00 ⑩THB 5,398,180.00 ⑪THB 10,000.00

(42) 2000及び2002～2009会計年度の歳入及び歳出、並びに2010会計年度の歳入。

(43) 2011及び2001会計年度の歳入及び歳出、並びに2010会計年度の歳出。

(44) バーツの100分の1の通貨単位は、サタンSatangである。本節では、表示金額の小数点以下がこれに該当する。サタンは額面が僅少であるため、タイ北西部中山間地に於ける一般の雑貨店や生鮮物市場等では、殆んど使用されていない。他方、同地域にある大型卸売業系列店では、単価計算の際に用いられ、実際の取引でも使用されている。

(45) バン・ボン区役所が同区の管轄域内で徴収するもの。

(46) 政府が酒税等による収入を地方自治体に配分するもの。

(47) 2007及び2009会計年度のものに、計上されている項目である。

(48) 2007会計年度のものに、計上されている項目である。

(49) バン・ボン区役所の会計年度は、10月開始9月終了である。

(2) 2010会計年度 (歳出は、見込み額)

a. THB 16,049,038.92:	①データなし	②THB 7,985,046.42	③THB 8,063,992.50
b. THB 16,000,000.00:	⑥THB 1,816,500.00	⑦THB 4,319,869.00	⑧THB 2,471,600.00
	⑨YHB 2,284,000.00	⑩THB 5,070,031.00	⑪THB 38,000.00

(3) 2009会計年度

a. THB 17,806,532.40:	①THB 282,247.90	②THB 7,933,932.62	③THB 7,541,711.88
	④THB 2,048,640.00		
b. THB 14,099,330.52:	⑥THB 1,735,160.00	⑦THB 4,257,458.00	⑧THB 1,433,849.00
	⑨THB 829,358.00	⑩THB 4,537,005.52	⑪THB 1,306,500.00

(4) 2008会計年度

a. THB 16,049,038.92:	①THB 197,073.31	②THB 7,787,973.11	③THB 8,063,992.50
b. THB 15,179,084.95:	⑥THB 1,191,000.00	⑦THB 7,757,086.45	⑧THB 3,995,647.50
	⑨THB 975,613.00	⑩THB 1,259,738.00	⑪THB 0.00

(5) 2007会計年度

a. THB 19,526,295.88:	①THB 432,274.07	②THB 7,753,519.77	③THB 3,921,542.00
	④THB 3,661,841.00	⑤THB 3,757,118.36 ⁽⁵⁰⁾	
b. THB 12,186,316.25:	⑥THB 47,500.00	⑦THB 5,354,492.18	⑧THB 4,691,806.00
	⑨THB 659,036.25	⑩THB 1,433,481.82	⑪THB 0.00

(6) 2006会計年度

a. THB 11,763,621.00:	①THB 335,698.00	②THB 8,343,312.00	③THB 3,084,611.00
b. THB 7,812,562.00:	⑥THB 0.00	⑦THB 4,699,049.00	⑧THB 2,298,020.00
	⑨THB 297,964.00	⑩THB 517,529.00	⑪THB 0.00

(7) 2005会計年度

a. THB 10,061,292.00:	①THB 256,891.25	②THB 6,683,682.38	③THB 3,120,718.37
b. THB 6,143,746.20:	⑥THB 0.00	⑦THB 2,473,654.44	⑧THB 2,916,102.26
	⑨THB 283,989.50	⑩THB 650,000.00	⑪THB 0.00

(8) 2004会計年度

a. THB 7,279,367.70:	①THB 347,469.50	②THB 4,497,298.20	③THB 2,434,600.00
b. THB 6,837,826.10:	⑥THB 50,000.00	⑦THB 4,176,464.14	⑧THB 1,876,206.96
	⑨THB 337,655.00	⑩THB 397,500.00	⑪THB 0.00

(50) この内の一部は、次年度に繰り越された。

(9) 2003会計年度

- a. THB 6,974,301.43: ①THB 405,745.04 ②THB 4,625,611.76 ③THB 1,928,496.63
 b. THB 4,874,150.00: ⑥⑦⑧⑨⑩⑪データなし

(10) 2002会計年度

- a. THB 4,576,961.62: ①THB 316,259.50 ②THB 2,573,218.59 ③THB 1,687,483.53
 b. THB 3,260,089.70: ⑥⑦⑧⑨⑩⑪データなし

(11) 2001会計年度（歳入及び歳出は共に、見込み額）

- a. THB 3,023,500.00: ①THB 88,000.00 ②THB 1,544,800.00 ③THB 1,390,700.00
 b. THB 3,023,500.00: ⑥⑦⑧⑨⑩⑪データなし

(12) 2000会計年度

- a. THB 2,891,103.00: ①THB 96,302.00 ②THB 1,387,197.00 ④THB 1,407,604.00
 b. THB 2,746,500.00: ⑥⑦⑧⑨⑩⑪データなし

バン・ボン区役所及び同区の区議会が編成した確定予算額（名目）の推移を、以上の様に見ると、次の指摘が可能である。即ち、歳入の規模に関して見ると、2010会計年度分は2000会計年度分に比較し、10年の間に5.55倍に伸びている（但し、途中2008会計年度と2010会計年度の前年度比歳入額伸び率は、マイナスを示す）。他方、歳出に関しては、2009会計年度分は2000会計年度分の5.13倍である（但し、途中2005会計年度と2009会計年度の前年度比歳出額伸び率は、マイナスを示す）。歳入及び歳出の増加は、同区役所管轄区域に於ける、経済活動規模の急速な拡大を反映していると言えよう。

4-3 区長の政策的抱負

バン・ボン区役所の区長及び主要職員は、同区役所が管轄する地域を、以下の様に理解している。

- (1) 長所; 自然が豊富である。農業生産物に対する市場評価が高い。
- (2) 短所; 同業種・異業種間の経済協力連携が不十分である。区内の産業は、概して投資資金が不足している。また、区内の平地に住む人々と山間部に住む人々の間の、区民としての連携行動が必ずしも活発ではない。

確かにバン・ボン区の経済には強い資金需要が存在し、この傾向を含め同区内の市場経済化は今後も更に進展すると予測できる。区長はこの点との関係で、次の2点を今後強く推進したいと述べた。

- (1) 雇用機会の創出。
- (2) 年長者、若者、及び幼児に対する、教育環境の改善と教育機会の推進。

更に、区内の経済活動規模は近年増大しているものの、失業率が高止まりしている現状に対し、区内の産業育成を一層図りたい、また、若者の学習意欲を高めることに資する制度の構築にも力を注ぎたい、と語った。

加えて区長は、山岳少数民族が集落を形成している、山岳・森林地帯や山地については、地球温暖化が問題化している昨今、熱帯季節林の貴重な自然環境と豊かな森林資源は、今後もその持続的保全・創出・活用に向けて努力を重ねたい、との意気込みを示した。事実、同区長は山岳少数民族の居住集落を頻繁に視察しており、消火水散布用背負い式タンク購入等の予算化を実現するとともに、緑化促進事業にも優先的な予算配分に努めている。

5 おわりに

本稿では、バン・ポン区に関わる行政関連資料の一部を報告した。この作業の主な狙いは、地方行政末端の姿に関する限られた資料を整理し、GONGOVAが現地で支援する山村の一つであるバン・ホエ・ヒンラートナイ村を取り巻く行政環境の片鱗を窺う事であった。従って特別な分析は試みなかったが、以下のささやかな知見を得た。

- (1) バン・ポン区の管轄区域内は、平地に住む人々と山間部に住む人々との間に、生活環境・自然環境の両面で有意な相違があり、それ故に両者が夫々従事する職業を、比較的容易に大別出来る（第3-3節）。即ち、平地では主として北タイ人が、水稻栽培や種々の商工業を営み、山間部では山岳少数民族が陸稲栽培やタケノコ採取等の農業に携わっている。また、平地に住む人々と山間部に住む人々との間の連携・協力活動は、必ずしも盛んでない（第4-3節）。
- (2) 同区の予算について見ると、歳入額は2010会計年度迄の10年間に、5.55倍に伸びている（第4-2、4-3節）。予算規模の拡大は、山岳少数民族居住地域における、①土道・砂利道をコンクリートやアスファルトで舗装する費用の増加、②防火帯整備等に要する費用の一部の増加、及び③山岳・森林地帯の緑化促進費用の増加にも、起因する。
- (3) 同区は、山岳少数民族居住地域の熱帯季節林が齎らす「優れた自然環境と豊かな森林資源」の保全に努めており、区長の同地域への頻繁な視察は、森林保全費用の継続的予算化に与って力がある（第4-3節）。
- (4) 同区の年間予算の歳入規模は、2000会計年度から2010会計年度迄の間に5.55倍に増加しており、この現象は、同区の管轄区域内の近年に於ける確かな経済発展を反映している（第3-2、第4-2節）。しかしこの動向は、同区内の雇用機会拡大や人口増加には必ずしも効果的に結びついていない可能性がある（第3-2、4-3節）。

翻って本稿が積み残した課題には、例えば次のものがある。

- (1) ラフ族の山村ホエ・サイ・カオ居住者には、市民権証明書が比較的頻繁に発給されているが、事実の再確認とその背景に関する事例調査・研究（第3-3節）。
- (2) バン・ポン区の区長及び区議会議員の間で見られる、職務分担の確認（第4-1節）。
- (3) 年間予算の歳出額に関する追加的データの収集、並びに歳出が区の管轄区域内に及ぼす効

果の分析（第4-2節）。

謝辞

本稿を纏めるに当たり、インタビューに御協力下さった、次の方々に謝意を表する（括弧内は、インタビューの行なわれた年月日及び場所を示す）。ホエ・ヒン・ラート・ナイ村の第一指導者プリーチャ・スイリ Preecha Siri 氏、同氏庶務係のダオチャイ・スイリ Daochai Siri 氏（以上、2010年10月7日～12日於同村落）、バン・ポン区の区長ラタコーン・タヌカム Rattakorn Tanukam 氏（2010年8月6日於上記村落、及び、同10月8日於区役所）、同区役所の政策計画部長イッテヤー・ジョームモンコン Ittiya Jommongkol 氏（2010年8月6日於上記村落、及び、同10月8日於区役所）、同区第七番村の村長スウォン・プライワクン Thwong Praiwakhun 氏（2010年10月10日於上記村落）、並びに同区の区議会議員ドゥアンディ・スイリ Duangdee Siri 氏（2010年10月7日～12日於上記村落及び区役所）。

参考文献

- 学習院大学東洋文化研究所, 1997, 『学習院海外協力研修プログラム実績報告書（第一回）』, 東京。
- 学習院大学GONGOVAプログラム・ユニット, 1998～2009, 『学習院海外協力研修プログラム実績報告書』（第二回～七回, 第十回～十三回）, 学習院大学経済学部川嶋研究室, 東京。
- 川嶋辰彦, 2009, 「私の『ボランティア』教育論—学生と子どもたちに伝えた自然の知恵、逆境の教え」, 『文藝春秋』, 第87巻第8号（8月号）, 東京, 310-320頁。
- 富田育磨・川嶋辰彦, 2010, 「『タイ北西部山村に居住するカレン族の音楽政治』現地調査—草の根的国際協力NGOヴォランティア活動の展開に肝要な文化理解—」, 『学習院大学経済論集』, 第42巻第3号, 東京, 123-149頁。
- 富田育磨・川嶋辰彦, 2011（近刊）, 「『タイ北西部山村に居住するカレン族の農業経済活動』現地調査—熱帯季節林山間地域の持続的社会的発展に資する森林管理哲学の考察—」, 『学習院大学経済論集』, 第42巻4号, 東京。
- 日本タイ学会, 2009, 『タイ辞典』, めこん, 東京。
- Ban Pong SAO, 2002, *The Budget for the Fiscal Year 2545*, Wiang Pa Pao, Thai land (in Thai).
- Ban Pong SAO, 2002a, *The Report on the Budget for the Fiscal Year 2545-2549*, Wiang Pa Pao, Thai land (in Thai).
- Ban Pong SAO, 2003, *The Budget for the Fiscal Year 2546*, Wiang Pa Pao, Thai land (in Thai).
- Ban Pong SAO, 2004, *The Budget for the Fiscal Year 2547*, Wiang Pa Pao, Thai land (in Thai).
- Ban Pong SAO, 2005, *The Budget for the Fiscal Year 2548*, Wiang Pa Pao, Thai land (in Thai).
- Ban Pong SAO, 2005a, *The Report on the Budget for the Fiscal Year 2548-2551*, Wiang Pa Pao, Thai land (in Thai).
- Ban Pong SAO, 2006, *The Budget for the Fiscal Year 2549*, Wiang Pa Pao, Thai land (in Thai).
- Ban Pong SAO, 2007, *The Budget for the Fiscal Year 2550*, Wiang Pa Pao, Thai land (in Thai).
- Ban Pong SAO, 2008, *The Budget for the Fiscal Year 2551*, Wiang Pa Pao, Thai land (in Thai).

Ban Pong SAO, 2008a, *The Report on the Budget for the Fiscal Year 2551-2553*, Wiang Pa Pao, Thai land (in Thai).

Ban Pong SAO, 2009, *The Budget for the Fiscal Year 2552*, Wiang Pa Pao, Thai land (in Thai).

Ban Pong SAO, 2009a, *The Report on the Budget for the Fiscal Year 2552-2554*, Wiang Pa Pao, Thai land (in Thai).

Ban Pong SAO, 2010, *The Budget for the Fiscal Year 2553*, Wiang Pa Pao, Thai land (in Thai).

Ban Pong SAO, 2010a, *The Report on the Budget for the Fiscal Year 2553-2555*, Wiang Pa Pao, Thai land (in Thai).

Ban Pong SAO, 2010b, *The Budget for the Fiscal Year 2554*, Wiang Pa Pao, Thai land (in Thai).

Kawashima, Tatsuhiko and Runako Samata, 2002, "International Volunteer Activities of GONGOVA: Grassroots Programme for the Underprivileged Villages in Thailand," *Gakushuin Economic Papers*, 39 (2): 83-96.